



2024年10月
第754号

日本基督教団 平塚教会
発行人 平塚教会
編集人 中山洋司
〒254-0045 平塚市見附町6-18
電話 ○四六三(32)八八三一



キリスト教をぶっ壊す

平塚教会牧師 北川一明

割礼の有無は問題ではなく、大切なのは、新しく創造されることです。(ガラテヤ六・15)
キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。(コリントII五・17)

国会の第一党、J党の党首選挙(総裁選)に立候補した人が「J党をぶっ壊す」と発言したことがありました。本人もいわゆる派閥の力学でポストを得た人ですが「派閥論理を壊さなければ国民の支持は得られない」と訴えてブームになりました。私は見えて「面白い」と感じました。

当時のJ党の不祥事は、今回の裏金問題ほど大きくはありませんでした。ただ派閥の談合による密室政治で「政治不信が高まっている」と言われていました。

「政治不信」という現状認識は間違っていたと思います。当時政治不信に陥ったのは、政治に強い関心を

抱いていた少数派です。残りの多くにとって不信感はずっと以前から続いていることです。政治に対して急激に高まったのは、不信感ではなく無力感、虚無・虚脱感、厭世観です。それでも自分の国の政治です。心の底から無関心なわけではありません。無力感の一方で、改善を期待する気持ちはあります。ですから面白ければ注目します。

「ぶっ壊す」と言った人が本当にJ党を壊せたかどうかは評価の別れる所でしょう。ここで取り上げたいのは政治ではありません。面白がって見ていた自分を含めた人間の「気持ち」を考えました。

その人を党首に選んだのは国民ではありません。J党の議員と党員です。どちらも自分の意思で党費を払って党員になりました。ですから本当にぶっ壊れることは望んでいません。むしろ党がより多くの人に支持され発展することを望んでいます。党員は、そのための改革・改善を期待していました。いっぽう議員だって改革・改善を望んでいなかったのではありません。ただ今までの利益を守りながらの改革には限界があります。それを知っている党員は「ぶっ壊す」ほどの改

目次

キリスト教をぶっ壊す 牧師 北川一明 …1	新設! 満三歳児保育舎 …4
チャイルドファンドジャパン・ スポンサーとして30年 中山身知子 …3	編集後祈 …4

革に飛びついたので。議員たちは、願った改革規模が小さかったゆえに抵抗勢力のレッテルを貼られました。

「改革なくして成長なし」という分かり易いキャッチフレーズに多くの人が政治への関心を取り戻しました。党員以外の日本人も、J党の改革が進めば政治は多少は善くなると考えました。私もその一人です。ただ民主主義の建前から言えば、J党が改革されるかどうかはJ党の問題であつて国の問題ではありません。党員以外には建前上は無関係のはずです。反J党の人も含めた国民全体が、自由に議員を選ぶ権利を行使し、その結果みんなでJ党に政権運営を委ねたのです。悪い人が選ばれたとすれば選んだ人の責任です。民主主義の理屈では、J党不信なら他を選べば良いだけのことです。改革が必要なのに出来ていないとしたら、改革の抵抗勢力は議員ではなく国民自身ということになります。

と現状維持を比較して、少しでも利得の多い改革を選びました。現状での利得が大きければ大きな変化は損です。そこで多くの議員は改革に積極的になれなかったのです。全ては損得勘定によるものです。私たちは改革に抵抗します。一つは自身の過去を否定するとアイデンティティが混乱するからです。それに今までやってきたことを変えても利益が得られるかどうかは不明です。損得勘定とはただお金のような物質的なことだけではありません。前例がないと不安になります。「不安だ」「面倒だ」などは精神的な損です。その意味で人は損得勘定から現状に留まろうとします。「新しいことに挑戦するのは苦手だ」という思いが私たちの自己改革を妨げるのです。しかしイエスさまは、自身の過去を否定する者が真の自分自身を救うとおっしゃいました。「自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのため、また福音のために命を失う者は、それを救うのである(マルコ八・35)」という聖句の「命」とは生命のことではありません。「魂」という単語ですから自己のアイデンティティとも言えます。人の魂は活き活きと動い

ているものです。アイデンティティの固定は死であり、アイデンティティの更新が命であるという教えです。

私たちは「新しい天と新しい地とを、神の約束に従つて待ち望んでいる(ペトロ二三・13)」はずです。それなのに新しいことに挑戦できなければ、死んで天国の門前に辿り着いた時に、逡巡して中に入れないかもしれませぬ。天国の扉が閉められた後では、いくら「開けてください」と言っても『お前たちがどこの者が知らない』という答えが返ってくるだけ(ルカ一三・25)」かもしれませぬ。

考えてみれば、新しいことに挑戦した時、私たちは活き活きと出来ました。そこでイエスさまは「子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることできない(マルコ一〇・15ほか)」とおっしゃるのです。

価値観もライフスタイルも社会構造も激変している時代です。五〇年前の教会の常識どころか十年前の常識さえ、今は改革すべきものになっていくのでしよう。過去の自分の信仰をぶっ壊す位のつもりで、活き活きとした新しい命を楽しみたいものです。

チャイルドファンドジャパン・スポンサーとして30年

中山身知子

およそ30年前、西田直樹牧師の在任中

に、先生の御紹介で、CCWA国際精神里親運動(チャイルドファンドジャパンの前身)本部のお話を伺ったことが始まりでした。内容は、アジア(フィリピン)を中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長と地域の自立を目指す活動を支援するというものでした。日本にも支援を必要としている子どもがいるのになぜフィリピンなのか、との意見もありましたが、今、与えられているチャンスに参加をということで、教会活動として決定しました。

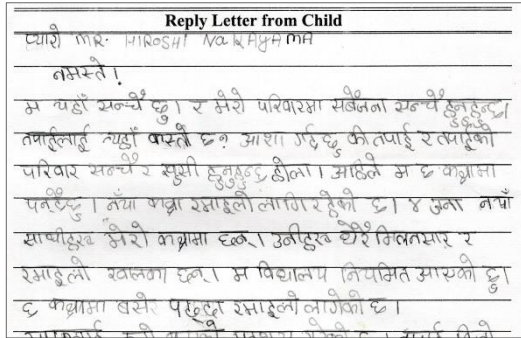
そして、2003年12月には、「支援30年感謝状」を教会あてにいただいています。我が家では、中山が個人で一人(2016年より二人)のチャイルドを、私が数人の方とグループで「中山身知子とその友達」として、一人のチャイルドのスポンサーとして参加することとしました。

「支援方法」は、チャイルド一人あたり月額4000円を献金し、担当の方が取りまとめて、毎月本部に送金するもので、現在の担当者の方は18年以上もご奉仕されて

います。

「チャイルドとの交流」は、前年度の成長記録と写真、チャイルドからの手紙、12月にクリスマスカード(フィリピン)・4月に新年のカード(ネパール)が届き、スポンサーはそれぞれに手紙やカードを返信します。

一年毎に成長しているチャイルドの様子を知り、低学年の時のたどたどとした現地の手紙が、ハイスクール卒業時には、



“初めての便りは現地語”

紙面一杯の英文の手紙となつて届くのは、楽しい驚きでした。又長年の気がかりであった


ネパールのチャイルドと交流ができたことも嬉しいことでした。

私達とネパールのかかわりは、20年前に、ネパールのナショナルチームで、バトミントンのコーチをしていた友人の「観光も支援の一つ」との誘いで訪れた際に、ヒマラヤを見上げながらのトレッキングの途中で立ち寄った山村の小学校は忘れがたいものとなりました。学校は、石壁の平屋の二部屋で、電気はなく採光のため窓は素通し、土間で壁に黒板がかかっているだけでした。授業は二部制で、途中の山道でキャンディを分け合つて食べた人懐っこい子ども達は、二部の生徒達だったので。教員は生活が成り立たず、研修のチャンスも少なく、ただ教科書を読むことしかできないとのことでした。

2015年のネパール大地震後、12月に再び訪れ、瓦礫の山となった首都カトマンズの美しいヒンドゥー教寺院や世界遺産の建物を目のあたりにし、山村では9割の家屋が、公立学校が校が全壊・半壊となっていると聞いて、あの学校はどうなっているのだろうか?と気がかりでした。

2016年ネパールでの支援活動が開始され、我が家にネパールのチャイルドが紹介

ご支援ありがとうございました!



27-1009-01

ChildFund
Japan

July 31, 2022
Dear Mr. Hiroshi Nakayama,
A great day to you. I am very thankful for all the support you have provided to me and my family. I have lots of learnings during my years in the sponsored ship program. I became active and diligent in dealing with my studies. I became more confident in communicating others and I can express my opinions well. I also learn to exercise my rights as a child and my leadership skill also enhanced because I acted as a leader in our class. I will continue to strive well to finish my studies in college. I will be taking up Bachelor of Science Hotel and Restaurant Management. You will always be my inspiration of my studies. Thank you so much. I will always pray for your good health.

Your sponsored child
Haidee
27-1009-01

“終了時の便りは英語”

ネパールでは、家事（家畜の世話・薪集め・食事の準備・弟妹の世話等）は女の子の仕事と考えられ、女の子の教育にお金をかけない家庭も少なくありません。

1975年フィリピンより始まったチャイルドファンドジャパンの活動は、ネパール、スリランカへと支援の輪が広がっています。

私たちのできることは限られて

され、その支援内容には、教員の能力強化プログラムが加えられていました。

現在、中山のチャイルド・ビシヤール（男・ネパール・2016～2023年支援）は、10年生終了により・ハイディ（女・フィリピン・2016～2022年支援）は、ハイスクール卒業により支援を離れ、ハイディは大

学の学士コースでホテル・レストラン経営を学びたいと手紙に書いています。中山も充分な年齢となりましたので、個人による月々の支援を卒業し、年に数回の目的別募金に参加しています。

「中山身知子と友達」のチャイルド・ジーン（男・フィリピン・2016～2023年支援）は、西ネグロス州自立により支援を離れ、将来は大学で、コンピュータ・学科学科選考を目指しています。

そして2024年7月から、スマタ（女・ネパール・10歳・5年生）との交流が始まりました。彼女の好きな色は赤、食べ物はバナナ、大きくなったら先生になりたいそうです。

いますが、一人でも多くの子ども達に、男女の区別なく、学びのチャンスが与えられることを願っています。

新設!

満三歳児保育舎

幼稚園では、今年度より満三歳の誕生日を迎えたお子様を随時受け入れることとなりました。今年度の受け入れ人数は、10名程度ですが、お子様の誕生日が受験日となります（ご希望の方は、事前にご相談ください）。

そのため、満三歳児専用の保育舎を図書室隣に新設しました。新保育舎では、複数の教師が園児に対応します。そして、まだ幼い子どもに即対応できるように、トイレ・手洗い場なども備えています。

幼稚園の新しい取り組みに、皆様のご支援をお願いいたします。

「編集後祈」

編集の最中は中秋の満月。暦の上では秋とはいえ連日気温は34度越え、「暑いですね」の挨拶で真夏の如き9月となりました。人類が育てている地球温暖化、そのような気がしてなりません。

（編集子）